

「教科に関する調査」について

令和元年9月20日

国立教育政策研究所教育課程研究センター

1. 今年度の調査問題について

今年度の調査問題は、以下の「問題作成の考え方」(平成30年8月22日全国的な学力調査に関する専門家会議 配布資料)に配慮して作成した。

各項目とそれに対する具体的な取組は下記の通り。

- ① 学習指導要領の理念・目標・内容等に基づくものとし、小学校の調査問題については、小学校第5学年までに、中学校の調査問題については、中学校第2学年までに、十分に身に付け、活用できるようにしておくべきと考えられるものを、各領域等からバランスよく出題すること。
 - 小学校・中学校国語:学習指導要領に示されている「話すこと・聞くこと」、「書くこと」、「読むこと」、〔伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項〕(3領域1事項)に基づき、全体を視野に入れながら中心的に取り上げるものを精選して出題している。
 - 小学校算数:学習指導要領における、「数と計算」、「量と測定」、「図形」、「数量関係」の各領域に示された指導内容をバランスよく出題している。
 - 中学校数学:学習指導要領における、「数と式」、「図形」、「関数」、「資料の活用」の各領域に示された指導内容をバランスよく出題している。
 - 中学校英語:学習指導要領に示されている4領域(「聞くこと」、「話すこと」、「読むこと」、「書くこと」)に基づいて、その目標や内容を踏まえ言語材料や言語活動をバランスよく出題している。
 - いずれの教科の調査問題においても、調査対象となる前年の学年(小学校第5学年、中学校第2学年)までの内容となるようにしている。
- ② 教員による指導方法の改善や、児童生徒の学習改善・学習意欲の向上等につながるよう、学習指導上、特に重視される点や身に付けるべき力を具体的に示すメッセージとなる問題を出題すること。
- ③ 知識・技能、思考力・判断力・表現力等は、相互に関係し合いながら育成されるものという新学習指導要領の趣旨を踏まえた指導方法の改善等に資するよう、知識と活用を一体的に問い、分析・活用の一層の充実を図ること。

【問題作成上の工夫】

- 「知識・活用を一体的に問う調査問題」については、新しい学習指導要領の考え方を踏まえ、例えば、日常生活の場面と関連付けられた設定の下、内容のまとまりに対応する大問の中で複数の小問が展開する構成とすることなどの工夫により、一連の思考過程に「知識」と「活用」の要素が一体的に位置付けられた問題を出題した。

(問題の例)

- ◆ 小学校国語¹ 調べたことを報告する文章を書く(公衆電話) ⇒ 小学校国語報告書 P.20～P.37
- ◆ 中学校国語¹ 情報を読む(新聞) ⇒ 中学校国語報告書 P.20～P.34
- ◆ 小学校算数⁴ 日常生活の事象を数理的に捉え判断すること(遊園地での待ち時間) ⇒ 小学校算数報告書 P.54～P.61
- ◆ 中学校数学⁸ 分析の傾向を読み取り、批判的に考察し判断すること(図書だより) ⇒ 中学校数学報告書 P.45～P.55

【分析・活用の工夫】

- 調査結果を各学校における教育指導の充実や学習状況の改善等に役立てる観点から、解説資料や報告書における設問ごとの「解答類型」を通じて児童生徒の見取りがより丁寧に行えるように工夫するとともに、特に報告書においては指導改善の手助けとなるよう、記述内容をより手厚くしたり、ビジュアル的な解説を掲載したりした。

(該当箇所例)

- ◆ 小学校国語 (学習活動の例) ⇒ 小学校国語報告書 P.24、P.32、P.47 など
 - ◆ 中学校国語³ 二 解答類型による正答の分析 ⇒ 中学校国語報告書 P.44～P.48
 - ◆ 小学校算数³ (2)と(3) 解答類型の設定とクロス集計分析 ⇒ 小学校算数報告書 P.46～P.51
 - ◆ 中学校数学⁸ (3) 調査問題を活用した学習過程の例 ⇒ 中学校数学報告書 P.51～P.55
- 本調査を活用した日常の学習指導の改善に資するよう、結果公表に当たって、教科に関する調査の個別の設問等と質問紙調査とのクロス分析の結果を示した。

(該当箇所)

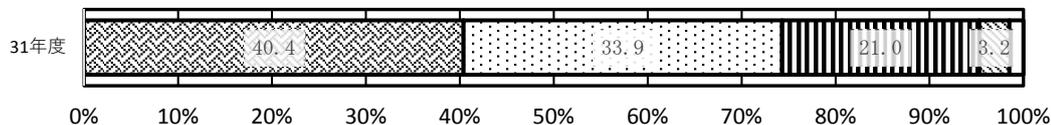
- ◆ 小学校算数・中学校国語の個別設問に係るクロス集計 ⇒ 公表資料 P.16
- ◆ 中学校英語に係るクロス集計 ⇒ 公表資料 P.19～P.20

④ 児童生徒が、全ての問題に十分に取り組むことができるよう、問題の分量が調査時間(解答時間)に照らして適切なものとなるよう努めること。また、児童生徒の調査の負担に、より一層配慮すること。

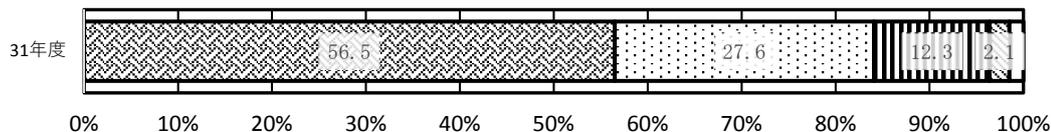
○ 今年度の質問紙調査の結果によると、調査時間の解答時間は十分でないと回答している児童生徒の割合は小学校国語約24%、小学校算数約14%、中学校国語約9%、中学校数学約15%、英語(「聞くこと」「読むこと」「書くこと」)約36%であった。なお、国語、算数・数学の結果は、各教科において過年度のB問題の結果と概ね同水準である。

質問事項:「解答時間は十分でしたか」

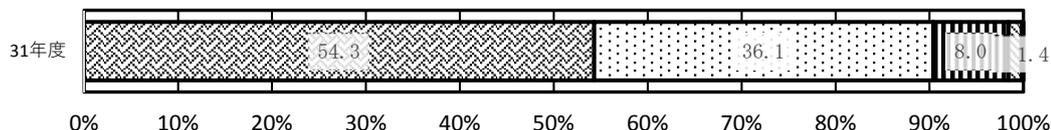
【小学校国語】



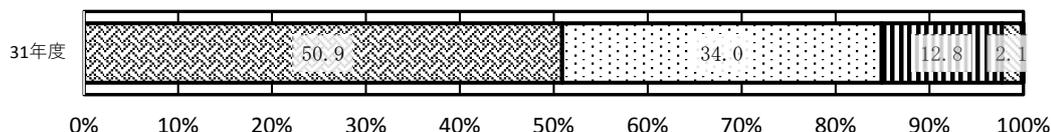
【小学校算数】



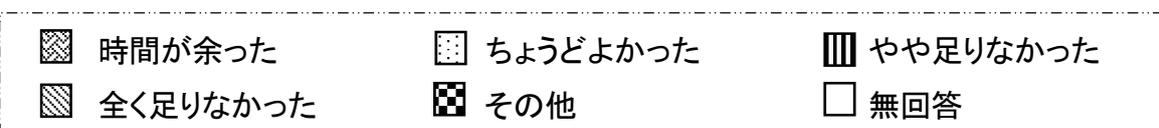
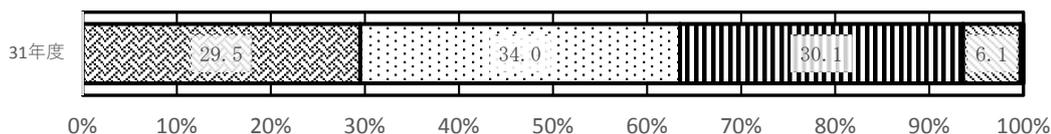
【中学校国語】



【中学校数学】



【英語】(「聞くこと」「読むこと」「書くこと」)



(平成31年度(令和元年度)全国学力・学習状況調査 報告書「質問紙調査」P.48 より)

⑤ 過去の調査で見られた課題を踏まえた問題も出題すること。特に、国語、算数・数学については、過去の調査結果との分析を行うことができるよう配慮すること。

(過去の課題を踏まえた今年度の調査問題の例) 【 】は過年度調査の関連問題。%の数値は正答率。

- ◆ 小学校国語²一(1)80.9%・(2)76.0%(目的に応じて、文章の内容を的確に押さえ、自分の考えを明確にしながら読むこと) ← 【H28B³三 53.2%】
⇒ 小学校国語報告書 P.40～P.45
- ◆ 中学校国語³二 78.0%(伝えたい事柄について、根拠を明確にして書くことができるかどうかをみること) ← 【小学校 H28 B³二(1)51.5%等】
⇒ 中学校国語報告書 P.44～P.48
- ◆ 小学校算数²(4)60.4%(加法と乗法の混合した整数と小数の計算をすること) ← 【H29A²(3)66.8%】
⇒ 小学校算数報告書 P.38～P.41
- ◆ 中学校数学⁴ 49.9%(反比例の表から式を求めること) ← 【H21A¹⁰(2)42.3%】
⇒ 中学校数学報告書 P.27～P.29

2. これまでの調査問題の振り返りと新学習指導要領下での調査結果の活用に向けて

- これまでの調査の結果から、各教科において継続的に把握されている課題が見られるところであり、新しい学習指導要領の全面実施を控え、調査問題を活用した学習指導の改善・充実に資するよう、特に現行学習指導要領(平成20年告示)下で実施された調査の振り返りを行うことが重要かつ有効であると考えられる。

- そこで、各教科において課題として浮かび上がったポイントを、学習指導要領で示された領域ごとに整理し、それらの解決・改善に資するよう、国立教育政策研究所ウェブページに年度ごとに掲載されている調査問題と関連資料(解説資料、報告書等)の情報を相互に関連付けるなどウェブページの充実を図り、データベースを構築することとする(別紙参照)。

